



大分県立竹田高等学校
関東同窓会
会報
第13号

発行者・会長 伊東七五三八
編集者・委員長 神田 清
発行所・関東同窓会事務局
〒100 東京都千代田区永田町
2-4-11フレンドビル7F
電話 03(5251)2730
FAX 03(5251)2750

印刷・佐伯印刷 幀

母校創立百周年 記念事業について

実行委員会委員長 田北和義 (昭18年卒)



田北和義委員長

阪神・淡路大震災、オウムサリン事件、住専問題、円高、景気低迷等昨年ほど忌まわしい事の多い年はありませんでした。本年こそ平和で良い年でありませう同窓生の皆様に心から挨拶を申しあげます。又、平素より母校竹田高校に対して絶大なご支持、ご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。

明治三十年四月二十七日(一)

八九七年)に大分中学校(現・大分上野丘高校)の竹田分校として発足して、九十九年になります。来年は記念すべき百周年になります。同窓会はもとより、地元地域社会、学校挙げて祝福したいと考えております。旧岡藩主中川久成公より多額の寄附金を、又、地元竹田町より校地の提供を、更に黒川文哲、小泉作夫、朝倉為親、広瀬重武の先哲をはじめとする地元有志の強力な誘致運動、資金集めの結果、本校が誕生した旧事に思いをいたし感謝すると共にその遺風を顕彰していかねばなりません。記念講演、招待試合、臥牛祭(学園祭)等を企画いたしてありますが、学校当局と協議の上、最

終日程をきめる予定であります。記念式典には多数の方を招待する予定であります。会場の収容力もあつて限られた方々となりませんがご容赦下さい。百周年記念誌は目下編集中でありますが、本年十二月頃までには印刷を完了したいと考えております。校史関係は高校五期の後藤重巳、鳥養孝好両先生にお願いしてありますが、昭和九年の火災、戦時中の陸軍病院接取、戦後の学制改革、三校舎統合、商業科分離独立等々の変遷があつて資料散逸して困難を極めております。

同窓生執筆の回顧録、写真等の蒐集は高校一期の倉原隆範先生を中心に進めておりますが、原稿依頼、原稿提出の事務が遅れがちであります。未提出の期は至急お送り下さるようお願い申しあげます。百年誌は千部印刷の予定であります。図書館、学校関係等には贈呈する予定であります。希望者には有料で頒布する事にしてあります。育英奨学資金は約三千万円程

度集める予定であります。竹田高校に在学する個人または団体に對して給付します。単年度三百万円程度給付する計画であります。給付基準、人選については別に定める定款により管理運営するつもりであります。役員として、学識、経験の豊富な人格者の方を選び、公平厳正に管理運営していただく予定であります。

この度の募金目標は五千万円でありませんが、一月末日現在で一千万円集まつております。お出し下さった方々へ厚くお礼申しあげます。本年十二月まで

に目標達成したいと思ひますが、情報を発信しても手応えが少なく、本当に五千万円集まるのか心配しております。趣旨に賛同下さいまして出来るだけ早めにご寄付下さるようお願い申しあげます。

兄弟校の宇佐高校、杵築高校、臼杵高校は夫々目標額は異なりませんが、一億五千万円、二億三千万円、五千八百万円集まつておるやに仄聞いたしております。皆様の郷土愛、母校愛によつて一日も早く目標達成が出来ますよう重ねてお願い申しあげます。第であります。

いま、母校では

|| 頑張っている母校のために、さらなるご支援を ||



尾西陽一先生

竹田高校校長 尾西陽一 (昭29年卒)

り厚く御礼を申し上げます。皆様の母校竹田高等学校は、創立百周年を迎えるのにふさわしい学校づくりのために教職員・生徒・保護者が一体となつて校風、高揚のために頑張っております。

まず、施設・設備に関しては、教育委員会の御理解をえて教室棟の大規模改修が完了して教室が大変きれいになりました。また、懸案でありましたプールの改修工事も順調に進み、三月には新しい装いのプールが竣工し



伝統のマラソン大会



カルタ大会

ます。

教育活動においては、「文武両道」を根幹として、生徒に切磋を与えることに務めております。学習指導に関しては、本年センター試験受験者が百七十名に達したことがその成果の一端を示しております。

久住この頃

久住町長 衛藤 龍天

(昭17年卒)



衛藤龍天氏

一昨年八月には久住高原でボイスカウト日本ジャンボリー



が開かれ、皇太子殿下を迎えて全国から三万余のスカウトがキ



突然噴火した硫黄山

ャンプし、大変賑わいました。昨年十月には硫黄山が突然噴

百名前後の状況から飛躍的に受験者が増加しました。これも先生方のご指導が一つの成果として結実しつつあることと確信しております。

一方、部活動に関しても、山岳、ラグビー、陸上、野球、柔道等が着々と力をつけてきてお

ります。そのことを特徴的に表しているのが高校駅伝大分県大会に三位に入ったことであります。結果はともあれ、各部とも平素の練習をきちんとやっております、このことの人間形成に資するところの意義は誠に大きなものがあります。

火し、すわ雲仙の再現かと、大変おどろきました。何しろ二五七年ぶりというところで、火山としての観測データは全くないので、气象台でも大学でも説明に苦労されたようです。久住に最も近い阿蘇の京大火山研究所の須藤助教の話では、地下の温度が急上昇して、水蒸気爆発が起こり、新しく十数カ所の火口ができ、大きいものは直径三十米もあるということです。十月十一日午後六時頃、大量の土砂を噴きあげて、その降灰は翌十二日にかけて、遠くは熊本にまで達しましたが、近い所でも道路が少し白くなる程度の軽いものでした。その後はただ蒸気を噴きあげているだけで、マグマの移動はなく、そのうちに少し衰えて落ち着くのではないかと見方も多いのですが、専門家の見解は「まだ予断は許さない」ということで、当分の間は火口から一軒は立入禁止にしています。

久住高原から見ると、その日の風向きによって、或いは東に、又西に、或いは真上にと、様々な形で噴煙が上がり、大変よい眺めになりました。

久住高原には、ガンジーハウス、花公園、星ふる館、あざみ台、岩崎スカイラインなどの観光施設や町営国民宿舎、くじゅうヒルズ、レゾネイトくじゅうなどのホテルとペンション、民宿などもあります。又、学生グライダー、芝生のマラソン練習コース、ラグビー場と合宿棟もできています。

皆様の活躍は関東久住人会長の佐藤映之さんからよく聞いています。帰竹の節は是非久住の噴煙を見に来て下さい。そして久住の自然と産品を満喫され、又、更なる発展をお祈りします。

平成八年・第十回 関東同窓会総会 と懇親会のご案内

当番幹事 30・40年卒
企画委員長 工藤 敏暢

①日時 平成八年六月十五日(土)
場所 京王プラザホテル 南館4F「錦の間」
受付開始 11時30分

②総会 12時~12時30分
会務報告、会計報告、に続いて久住校長、同窓会長に来賓挨拶を依頼。

③懇親会 12時30分~14時30分
懇親会では多数の来賓、新入会員の紹介を予定しています。また、ビンゴゲーム、高校歌斉唱、竹田の風物ビデオの放映等盛り沢山の企画を予定しました。多数の会員のご参加をお待ち申し上げます。

会務の概況

幹事長 佐藤 映之

わが竹田高校関東同窓会は昭和六十二年に創立、今年で十年目を迎えました。会員も千七百有余名を擁し組織力も拡大の一途を辿っています。これは申すに及ばず会員各位の熱烈な母校愛と会に対する積極的な協力のおかげと深く感謝致しております。又会の運営にあたっては年七、八回の役員会、春秋二回の幹事会、各委員会の推進会議、当番幹事の連絡会議等々精力的なボランティア活動により成り立っております。創設以来、紆余曲折しながら十年の節目を迎えた今日、改めて当会運営の現況をご報告しご理解とご協力を賜り更なる発展を遂げてまいりたいと思っております。

(一)役員会
年間七、八回、相談役、会長、副会長、正副幹事長、及び各委員長が出席、総合的重要案件の審議。

(二)幹事会
年二回(春秋)、各役員、学年幹事(現在大正十四年、昭五十五年卒まで四十五学年)及び当番幹事により、

- 会の安定的運営のための基
- 各委員会の活動報告
- 各学年の動き、会員情報
- 母校情報報告

○総会懇親会(年一回)実施の具体策協議等。

(一)委員会活動

○総務委員会―財務全般、会計、維持会費の増額促進及び管理

○企画委員会―会運営の企画、立案、並びに総会・懇親会のコーディネート

○組織委員会―会員の増強、組織強化

○広報委員会―広報紙「臥牛」の発行(年二回)一回二千部発行(平成八年三月現在)

○名簿委員会―会員名簿の発行(隔年)、会員の加入、退会の管理

以上五つの委員会の外に年一回の総会時における懇親会の部を企画委員会と連動して次の意図をもって「当番幹事」が輪番で担当しています。

○毎年担当が変わることにより会場選定やアトラクションに変化がでる。(マンネリ化防止)

○学年単位による会への参画意識の高揚、卒後四十年、三十年、組の先輩後輩ペアの協同イベントの演出、同時に上下交流

○輪番制により上下学年と改めて接点ができ友情の輪が広がる
等々。当番幹事制は第五回総会より導入しておりますが担当された皆さんのご努力により毎回多大の評価を受けております。

会の構成員は同窓生個々人でありませんが会から会員へ、会員から会への有効な伝達は何といつても各「学年幹事」に負う点が大きいものがあります。幹事会等には積極的にご参加(不都合のときは代理出席でも可です)いただき同窓会と同級生を繋ぐパイプをより強固なものにして欲しいと思います。同窓会の運営は母校の発展を願いつつ、会員相互のよりよい交流の場づくりを追求すべきと念じております。会の存続は幅広い会員の意志が反映されてはじめて可能と思えます。会員の皆さんの忌憚のないご意見をお寄せ下さい。

尚、平成八年の総会、懇親会は六月十五日(日)、京王ホテルの予定です。スケジュールに折り込んでいただければ幸いです。

委員会報告

組織委員会から

組織委員長 川合 文彦

「臥牛」を毎号たのしく読ませてもらうています。中でも同級生だけの集まりの良いのには感心いたします。日頃から何かと接触があるためでしょうか幹事さんの強力なリーダーシップにもよるし、毎年交代で選ばれた世話人さん達が知恵を絞って企画した例えば温泉一泊旅行などがみんなに喜ばれているからだと思います。しかし残念なことには二〇代、三〇代の若い世

代の人達の同級会の集まりは活発でないように見受けれます。そこで、提案ですが、普段から集まりがよくないと思つて同級会の幹事(学年幹事)さんには、この関東同窓会総会当日に同級会の集まりを持つことをおすすめします。総会後の懇親会で当日会費を納めて出席するのは自由です。

広報委員会から

広報委員長 神田 清

臥牛を会員相互の自由な意見交換・触れ合いの場として大きく育てよう!!

●臥牛「編集の基本理念・基本方針」について

戦後五十年、今後の在り方については幾多の問題が提起されており、最近では特に住専・金融関係トップリーダーの倫理観・責任の取り方等々については、各方面で数々取り沙汰されており、考え方・観方も様々です。さて斯様な中でのこと臥牛編集の在り方もいろいろな考え方があります。新編集委員の「臥牛編集基本理念とその方針」は委員全員の自由闊達な意見と全会員から好意的に戴いたご投稿原稿は出来る得る限り

名簿委員会から

名簿委員長 山口 雄二

●関東同窓会会員名簿を目下改訂中

- ※お願い!!
- ①各学年幹事の詳細な再点検
- ②記載漏れの新規掲載

名簿中の誤字・脱字等々お気付きの方は名簿委員長又は事務局(渡辺五月)までご連絡下さい。関東同窓会事務局

TEL 〇三(五二五二)二七三〇
FAX 〇三(五二五二)二七五〇

すが歯科クリニック

菅 眞一 (昭40年卒)

港区六本木7-3-12
六本木インターナショナルビルB1
TEL 3478-4995

診療時間 10:00~午後6:00

平成七年度

関東竹田会総会

田部 修士(昭42年卒)



竹田会会長 里見豊氏(右より2人目)

竹田会総会が十一月十日午後六時から東京・中野のサンプラザで開催された。

来賓に、後藤宗昭市長、内川紀昭市議会議長、高山昇次郎商工会議所会頭、姫野勝俊、菅謹一郎両副会頭、板井良助もぐら会会長、後藤真志前もぐら会会長、志賀克洋竹田創成館、仲村睦雄城下町竹田実行委員長を迎え盛大に開催された。

司会を桑島輝茂幹事が担当。「今回の案内状送付総数千四百二十人。本日の出席予定者は百四十人。」と述べて開会宣言。里見豊会長が「竹田会は、竹田市にゆかりのある方ならどなたでも出席できる親睦会。多くの方の出席を期待している。JRの車中広告で、ゆーわく大分キャンペーンが行われている。このキャンペーンが観光誘致に寄



竹田市長を交え「荒城の月」を合唱

与することを願っている」と挨拶。次に、来賓の後藤市長が、最近の市政報告の後、市議会の内川紀昭新議長を紹介した。また、在京の高山陽視氏に「寄付等を通じて大変な貢献をいただいた」として、竹田市からの感謝状を授与した。次に、高山商工会議所会頭が「竹田市もこの十年間に二度の大水害に見舞われたが、予防のための河川拡幅工事も終わり安堵している。竹田駅前等の風景も変わったが、大変良くなっている。一度、郷土訪問を」と挨拶。

後藤鉄石氏の発声で乾杯。懇親の宴に入った。歓談中、来賓の方々が次々に壇上に立ち、そ

それぞれの立場からの竹田市の近況報告があった。「豊岡小学校改築の際の協力へのお礼」とか「ゆーわく大分の城下町竹田委員会委員長に就任」の弁等々。その後、恒例の「竹田名産品」福引き抽選会に入り会場がわいた。最後に全員で「荒城の月」を合唱、故郷竹田を偲んだ。閉会のことばのあと会員は、お土産を手に散会していった。

45年目の東京二六会 「初春の集い」

大橋 知子(昭26年卒)



東京二六会「初春の集い」

春を待つ二月二十三日、博報堂にて同窓会を開きました。寒

い時期で、社会情勢も厳しい時でしたが、三十六名が集まり、仲々賑やかな会でした。

数えて卒業四十五周年にもなり、夢まぼろしの中を生きていた様な気がします。さては老境に入ったのでしようか。祝二十五周年大会が竹田で開かれて以来一〇〇名規模の全国大会が各地で開かれ、今年の十月に、名古屋で開催の予定です。東京二六会秋の会と共に楽しみます。

旧友の笑顔を見ると、翌日から元気が湧きます。今後ともその幸せを得るため出席したいものです。

二八会還暦記念大会

麻生 巖(昭28年卒)

私達二八会は、昨年十月二十一日(二十二日)故郷竹田で還暦記念大会を開きました。

この記念大会は竹田地区の間からの、こんな呼びかけで、なんと一六五名が全国から集まりました。

「私達は、青春時代を共に過ごし、故郷竹田を共有している。そしてこれを失うことのない大きな財産として守り育ててきた。還暦という人生の句読点を通過するとき、今一度振り返ってみたい。そしてまた新しい気持ち

未来の素材に、

Superface



日本パーライジング株式会社

〒103 東京都中央区日本橋1-15-1 TEL. (03)3278-4357

ちで前に進みたい。それも一人ではなく、……友よ/会いたい……」

記念大会は、十月二十日阿長陽本GCでの七組による二八会還暦記念コンペという特別行事から始まりました。東京組も十二名参加し、素晴らしいコースと美味しい空気の歓迎を受けました。十月二十一日、これも特別イベント同期生の一人末吉北九州市長の講演を母校体育館で拝聴。

そしていよいよ記念大会本番となりました。

会場は岩城屋、真っ赤なブルゾンが配られ全員着用しての記念撮影、立派な記念誌・プログラムも用意されました。



ズラリ勢揃い、竹高二八会還暦記念大会

西実行委員長の挨拶、関東・関西・福岡・北九州・大分の各地区の近況報告等々セレモニーも整然と行われました。

祝宴は和服姿の見事な式三番で開宴、米国から参加の工藤兄の音頭で乾杯、続いて祝舞、神楽、そして昔に戻り笑顔と握手と語らいと賑やか三昧、締めは全員肩を組み、一つの輪となつて、校歌の大合唱と万歳、あつと言う間に夜も更けました。

十月二十二日、見るも懐かしいあの竹田バス三台連ねて故郷観光。まずは緒方原尻の滝、ここは日本の滝百選の一つとか。吊り橋ゆれてワーワーキャーキャー。

次は朝地の朝倉文夫記念館、

田舎と本物の芸術に触れました。久住高原では、噴火した硫黄岳の白煙を仰ぎ、紅葉に積もった灰に触れてきましたし、岩崎観光道路も楽しみ、竹田駅を終にチャンチャンコならぬ真つ赤なブルゾンの還暦記念大会も終了しました。

故郷に住む友達の素晴らしい持てなしに感激、友とわが身の健康に感謝した、青春への回帰の一時でした。



二八会プログラムと思い出の記念誌

「七耀会」雑感

藤原 峯子(昭30年卒)

「七耀会」は昭和三十年第七期卒業の同期会の名称です。

早いもので七耀に輝く夢と希望を胸に母校を後にして四十年余り、今年には還暦を迎える歳となりました。これまで七耀会では年一回をモットーに会を重ねて、交友と親睦を深めて来ましたが、卒業四十年を期して、皆なで大いに人生を、ふるさとを語ろうでは……と、いろいろと



「七耀会」in 箱根湯本

去る十月の第一週末、会場は箱根湯本での一泊旅行となり、地区会員のうち約半数の人の出席を得て盛大に行われました。喜々として集い来る会員は一樣に頭に髪に霜を置き、眼鏡の世話になりながらも、気分は卒業時の紅顔の美少年、美少女そのまま、語らう程に食う程に雰囲気は盛り上がり、時の過ぎ行くのが恨めしく思える程でした。六十年近い歲月の中のほんとは短い三年を竹高で過ごしたというだけで、日頃の煩雑な生活ペースを皆な排除して、ただなつかしさ、やさしさ、同郷人の暖り、におい等を求めて集い来る仲間達、そんな仲間のいるしあわせといとおしさを感しながら……今年には又、関東同窓会の学年幹事の一員の由、何んなりとお手

鄙びた城下町で時間を共有した仲間が関東の地で集うようになって早八年、いつよりか「臥牛会」と名付いた昭和四十三年卒業生の同期会を、都会の木々の葉も色付き初めた十一月十一日(午後五時より)十六名が出席して、横浜の中華街で開催した。美味しい料理に舌鼓を打ちながら近況を報告。中には初めて出席された方もいたが、すぐに当時の顔が思い出され、座に解け込み昔話に花が咲いた。

女性は子育ても終盤に差し掛かり、男性は社会の中堅、いやそれ以上として重責を負う立場になり、現在の様子も垣間見ることが出来た。



カラオケで発散、「臥牛会」の二次会

年一度の臥牛会

山崎 和美(昭43年卒)

伝いさせていただこうと思っっている昨今です。

お互い旧姓や名前呼び合っている、十七、八歳頃の制服を着た顔が浮かび、授業風景や休み時間、あるいは竹田の町で会った頃の懐かしい様子が思い出される。一次会で三時間近く話が弾み、酔いを醒ましなから伊勢崎町の二次会会場へと向かった。女性も男性も家庭や職場では決して見せないであろう十代後半の頃の顔に戻り、カラオケで若き日の青春を思い出し、時間の立つのも忘れ気が付けば解散の時刻。それぞれ家路へと向かいながら来年の出席を約束した。この「臥牛会」、毎年十月の第三あるいは第四土曜日の午後には予定。是非多くの方々の出席を待っています。

第21全国菓子大博覧会
三笠宮名誉総裁賞受賞

登録商標

荒城の月

御菓子司

自由堂

本店：竹田市駅通り

国道店：国道57号線拝田原

大分店：大分市牧(西萩原バス停前)

登録商標

三笠野

(有)川口自由堂

☎ 0974-63-3258(代)

FAX 0974-63-3549

☎ 0974-63-3260

☎ 0975-56-0121

会員特別寄稿

戦後五十年

節目を機に

思うこと

初代生徒会長(現・明石市在住)

野島 君孝(昭25年卒)

関東竹高同窓の皆様方、御清祥にてご活躍の趣お慶び申し上げます。

第二次世界大戦の終結という文字通り「国運を賭けた選択」を果して、自決された竹田の大先輩で、わが国最後の陸軍大臣・阿南惟幾大将と、その奥様のお話をさせていただきます。

將軍は五百万陸軍の総帥として、本土決戦にはやる部下を押さえ、ポツダム宣言受諾の御聖断下るや、従容として割腹自殺されました。戦いである以上勝敗は時の運、

「一將功成つて萬骨枯る」と誰か言う、男の責任のとり方、もののふの見事な散り際を、郷土の誇りと、あらためて感じ入ります。

陸相官邸は空襲で焼け、高級副官用の木造平屋が官邸になっていました。阿南將軍は陸軍のクーデター計画を承認せず、厳重に決起を戒めて御前会議に出席。続く閣議さらに詔書の副署を終えて、昭和二十年八月十四日夜半仮住居の官邸に帰られま

した。

竹下中佐(夫人の実弟)は、將軍が自決準備中であることを知り、將軍の部屋に駆けつけ、名乗りますと「何しにきたか」と、いったんはとがめるように言いましたがすぐ

「いや、よく来た」と迎え入れました。中に入ると日本間には寝床が敷かれ、白いカヤがつられてありました。

机の上には徳利とチーズを並べた小皿が盆ののつていました。將軍の血色は平常と変わらぬ温顔に疲労の影もありません。

(兄貴、ちつとも変わらぬ) そう思ったとたん、中佐は興奮の血が冷え、静々とした風が吹きぬける感じがした由です。

一死以て大罪を謝し奉る

大君の深き恵みに浴し身は言ひ遺すへき片言もなし

昭和二十年八月十四日

陸軍大臣阿南惟幾

將軍は、職務に対する責任 聖旨に反する意見をのべた責任 陸軍を代表する責任

そのすべてを一身になつて、名誉ある死を、名誉ある時期に求めたと申せましょう。

床の間には正装の上着が勲章を全部つけて置かれ、その上に十八年に戦死した次男惟成少尉の写真を置き、それを抱くように軍服の両袖を前にそろえてありました。

☆ 教えこし言葉のままにものふの

☆ 道をふみつつ君は散りぬる

☆ 御令室綾様の詠まれた歌です。

☆ 大臣は綾様に、

「後を追うことはならぬ、子供の養育を頼む」と遺言されました。綾様は、ご次男はすでに戦死、長男と長女を東京に残され、

惟正、惟道、惟茂の三男と次女聡子さんを連れられて、竹田市の私の家の離れにお帰りなさいました。

☆ ※新日本製鉄㈱の前副社長、現・太平工業㈱社長 阿南惟

正さんは竹田高校昭和26年卒

綾様は、逆境のきびしい戦後を子育てに専念されました。末子惟茂さんのご結婚のあと、綾様は、子供達を集め、申されま

した。「これでお父様との約束は果たせたとおもいます。私は仏門に入り、余生を有縁、無縁の方々の御供養につくしたい」と。

☆ 大臣逝いて五十年。綾様十三

回忌の供養にと、惟正さんから、阿南綾遺詠集(秋桜歌集)が送られてきました。六百余首の珠

玉の歌のなかから、二首を書き添えさせていただき、男の死に態、女の生き態に深甚な畏敬を捧げて拙文を終わらせていただきます。

☆ つづくべき子らを論して静かにも

☆ 刃に伏しし君をしぞ思ふ

(昭和二十年八月)

☆ 終戦に際して)

☆ 満ちたりて心にかかる雲もなし

☆ いざ分け入らん法の山路に

(昭和四十六年十月)

☆ 得度に際して)

第二次世界大戦による、このような悲しくも痛ましい事件がありました。また、この戦争により多くの尊い命が失われました。この反省の上に立つて、日本は民主国家・平和国家として再出発し、戦後五十年を経た現在には高度産業技術の進歩発展、急速な経済成長を遂げ、今や世界経済大国としての地歩を確実にするに至っており、感慨ひとしおであります。(広報K追記)



第2回 移情櫻樹碑

渡辺 正治(昭10年卒)



この樹は柴山鳳来先生の遺愛の櫻樹である。

先生が来藩されて、初めて満開のこの櫻の巨木を見て申された。「ああ何と見事なことか、これは誠に雲か雪か、ああ！やはり花であるよ。惜しいことに都の中でなく、こんな山村に育ったのは。若しこれが広々とした都の中の土地に繁っていたらば、一般の文士や花見客のみでなく、身分の高い紳士や宮人達の詩文や歌にもてはやされて、数多く今日まで伝えられた事であろう。然し自分の考えはそれとは違う。何となれば天然の水石木草は、必ずしも人にもてはやされるべきではなく、自然のままがよいからである。

この世には天然自然の妙に勝るものは無いのである。」

此より後は春の盛りになると何時も訪れて、道で会う人毎に

ふるさと名所紀行 〜原尻の滝〜

緒方駅から竹田方面行きバス一〇分の滝入口下車、徒歩五分。緒方川にかかる滝で、落差約二〇メートル、幅約一二〇メートル。水量豊富で、その豪快に落下する様から「東洋のナイアガラ」の別称がある。大分百景の一つにされており、特に春の新緑、秋の紅葉の頃の眺めが素晴らしく、家族づれなどで賑わう。



随筆

仲秋の感慨

後藤 浩一 (昭27年卒)

先般、連れ合いの亡母の五十回忌の法要に参列した。菩提寺住職の「近年、五十回忌の法要を営むお家は極めて稀になりました。本日のご参会の皆様方が戦後五十年を生きぬいて来られた証であり、大変おめでたい日を迎えられたという事で、故人もさぞかし喜んでおられる事でしょう。」なる法話に納得、痺れた足で焼香、近所の親戚の墓に詣で、小宴の後、水上温泉(群馬県)に投宿した。翌日、義兄の車に遠来の二組の夫婦が便乗、錦繡の上州路のドライブである。完工後、新名所になった「奈良俣ダム」の景観に一驚、科学の粋を集めた人工美に息を呑む。髪を乱す強風にハワイの名所とおなじくらしい強さだとダム関係者にきかれたら怒られるであろう印象を抱きながら次を指す。九十九折りの路は登るに従って紅葉の度合いが増す。途中(水原秋桜子)命名「時雨の滝」の立て札が目に入る。「どこだったかな!ここらあたりだったと思うが、ないな」とその他の滝の見つからないのが自分の所為であるかのように恐縮し、なんとか遠来の客に溪谷美を馳

走しようとする義兄の心配りに逆に恐縮する。やがてお目当ての「谷川岳」の麓に到着。「一の倉沢」の看板の立つ広場を曲がると忽然とそれは在った。山容は、一望、ぐうーと迫ってきて思わず後退りしたくなる。逆にじいーと見つめていると思わず引き寄せられる様。景観・威容・畏容・怖容……私は言葉の貧困を呪う。連れ合いに教えられていたJR駅構内の自然水の宣伝写真にそっくりそのままのそれが眼前に在った。岸壁から滲み出ている水を汲んでいる婦人の後に立って見ていたら、「よろしかったら空のボトルを差し上げましょうか?私、もう二本汲みましたの。実は十九歳で事故死した息子の四十九日を旬日後に控え、生前、自然水が好きだったので墓前に供えたくこの水を汲みに参りました。」と、瓦礫混じりの道を駆け戻って持って来て下さったボトルに谷川岳の水を汲んだ。親の五十回忌を供養する子供が居れば、成人式直前の子供に先立たれた親も居る。遺族か関係者が積んだのだから、眼前に散見する遭難者を弔うケルンと、新しいもの、半ば枯れたもの、色とりどりの供花。それ等を目のあたりにして、連れ合いと二人、暫し無言で立ち居た。帰りの新幹線の中で些細な事から諍いを起こし、車中口を利

必ずこの桜樹の有様を尋ね、若者五六人子供六七人を連れて来て、遊び楽しみ歌って帰るのが常であった。先生は武蔵の国川越の人で、其系図に寄ると祖先は左近衛中将新田義貞公である。



かず。『嗚呼』

平成八年二月

桜栄産業株式会社

日本火災A T S 上級代理店

代表取締役 後藤 鉄石

〒343 越谷市北越谷3-17-7

電話 (0489) 77-0287

「オールウェイズスマイル」

医師 秦 英子
(昭39年卒)

四十年近く前でしょうか、今はもうなくなりましたが、古町の映画館クラブで織田信長の映画を見た時のワンシーン。

信長が桶狭間の合戦に出かける直前、
「人生五十年外典のうちに比ぶれば……と話しながら仕舞を舞っていました。」

その時私は、「あー戦国時代の日本人の平均寿命は五十歳なんだ。」と漠然と書いていました。同じ頃又漠然と将来は医療関係の仕事をやりたいと思う様になりました。その後、その方面の勉強を重ねていくにつれ、人間の体の精巧なことにただ驚嘆するばかりです。創造主という方がおわしますならば、よくぞこれ程の生物を作ったもうたと感謝するのみです。

例えば、胃壁よりPH3の胃酸が分泌され食物はどろどろに消化しますが、同じ蛋白質の胃壁の表皮細胞は健在なのです。それは胃酸が分泌される時絶妙なタイミングで胃壁の表面にアルカリ性の物質で膜を作り表皮細胞を守るのです。(この絶妙なタイミングをストレスやお酒・薬・その他で狂わせると自分の

分泌する胃酸で自分の胃壁を壊してしまう胃潰瘍になる。)

又、肝臓における代謝作用や解毒作用の化学反応は、これを体外で再現すれば東京都程の化学工場と国家予算程の費用が必要といわれます。それがたかだか四百立法センチメートルの中で三十六度の温度で瞬時に行ってしまう。ただ驚くばかりです。

腎臓の働きももちろん、外敵に対する防禦反応ももちろん、その中で私が一番感動したのが胸腺の存在です。元来胸腺は心臓の近くにあり体の発育を促進したり、免疫反応の一端をにない体を守る働きをしますが、ある時よりその生命体を終焉に導く働きに変えるのです。各臓器各器官は消耗し、老朽してその役目をとおえ、生命体の終わりを迎えると思っていました。が、積極的に生命の終わりを告げる器官がこの体内にあるとは……。一個体として小さなスパンで考えると悲しいが、大自然の中の一生物として大きなスパンで考えると世代交代をしなければいけない。何という素晴らしいことだと思えました。創造主はそこまで考えてこの人体を作りあそばしたのかと。

その胸腺が働きを百八十度転換するのが生まれて五十年といえます。

信長がそれを知って謡ったのか、いや謡曲の作詞者が胸腺の

存在を知っていたのか、今はそれを知る術もありませんが。

現在の平和な日本は胸腺の働きとは反対に、環境衛生が良く、医療が進み、皆等しく受けられる制度が整っているため世界一の長寿国になりました。我々が年金や老人保健が受けられる対象になる十五年後や二十年後には老人国になります。その時の潤滑油はスマイルではないでしょうか。お世話する方される方がお互いの顔に笑みがあれば日常生活もスムーズにいくと思います。

「オールウェイズスマイル」この言葉を胸に患者さんと相對している毎日です。

真打ち

柳亭 市馬に

花形演芸大賞が

本名・右藤泰幸・緒方町出身
竹田高校・昭55年卒

国立劇場が、若手演芸家の育成のために月例で行っている花形演芸会の出演者から選ぶ「花形演芸大賞」の大賞に、落語家の柳亭市馬が決まった。

市馬氏は緒方町出身、三十四歳。落語協会長の柳家小さんに入門。スケールの大きな芸風で一九九三年九月、抜てきされて真打ちに昇進した。会では、力と

技量の両面が求められる「掛取り」「寝床」といった大ネタと、平板で演出のやっかいな「だくだく」の三席を巧みに演じ分けた。
(朝日新聞 H8年3月19日)

会員へのお知らせ

「ご存じですか一度参加してみませんか」

催物

◎第十回関東同窓会総会

- 平成8年6月15日(出)
- 京王プラザホテル 南館4F「錦の間」
- 受付開始 11時30分
- 総会 12時～12時30分
- 懇親会 12時30分～14時30分

◎二五会全国大会

- 総会・懇親会…11月9日(出)
- 割烹料の井(大野郡三重町)

◎二六会名古屋大会

- ゴルフ会…10月12日(出)
- 総会・懇親会…10月12日(出)
- 名古屋観光ホテル(2階)

編集後記

●お詫びとお断り!!

- ① 前々号よりの特別投稿が未掲載のままに成っており、甚だ勝手ながら今回は「海外便り」「先輩を訪ねて」の欄を次号に廻らせて戴きました。ご投稿の皆々様に何卒ご容赦賜り、謹んでお詫びとお断りを申し上げます。
- ② ご投稿戴きました皆々様の職名・職位につきましては、平成八年三月三十一日現在のままで掲載させて頂きました。ご了承下さい。



※「投稿」をお待ちしています!!

・投稿内容

- ① クラス会情報
 - ② 故郷の便り
 - ③ 海外便り
 - ④ 会員の語らい
 - ⑤ 詩歌
 - ⑥ 会員の催し
 - ⑦ 会員消息
 - ⑧ その他
- ・連絡先
〒279
千葉県浦安市今川2-10-31
神田 清 宛(広報委員長)
☎0473-54-9456